

令和5年度第2回鳥取県西部保健医療圏地域保健医療協議会(健康づくり部会) (復命)

- 1 日時 令和5年9月27日(水) 14時～15時30分
- 2 場所 西部総合事務所米子保健所(大会議室)及び Web 開催
- 3 出席者 藤井所長、木村副所長
医薬・感染症対策課 森田課長補佐、川上係長、山田副医長
健康支援総務課 柴田補佐、森本主任、石津副医長、坂本保健師
天野委員、田本委員、青砥委員、角委員、米田委員、白根委員、遠藤委員、森本委員
(12人中8名出席)
境港市、南部町、伯耆町、日野町、江府町(オブザーバー)

4 概要

(1)開会、あいさつ

① 保健所長あいさつ

本日はお集まりいただき感謝する。この会では西部地区の健康づくり計画の内容について審議いただく形になっている。6月に開催された本年度1回目の会議では、現状や課題等を中心に、それぞれの立場からご意見をいただいたところである。スケジュール的には今回を一つの区切りとして案をまとめて、11月に西部地区としての全体会を開催する予定である。その場で各代表の確認をいただいて、それを県庁の方に提出し、東部・中部・西部をそれぞれひとまとめにして鳥取県保健医療計画として、来年度スタートするという大まかな流れになっている。

限られた時間だが、前回の意見も踏まえて、オブザーバー参加の市町村や団体を含めて、今後に向けて皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

② 開会宣言・自己紹介

- ・委員12名中8名参加であり、県附属機関条例第五条(過半数以上の出席)を満たし会議成立。
- ・今回が本年度初参加となる2名の委員より自己紹介いただいた。

(2)報告事項

① 令和4年(第8回)県民健康栄養調査及び国民健康・栄養調査の結果の概要について

(事務局)から資料5について説明。資料1～4は保健医療協議会の部会共通資料。

② 第8次鳥取県保健医療計画の策定について

- ・令和5年西部保健医療圏地域保健医療計画の開催状況について
(事務局)から資料1について説明。

- ・第7次鳥取県保健医療計画(西部保健医療圏地域保健医療計画)の評価に係る各委員からの意見と、第8次計画に向けた対応について

(事務局)から資料2について説明。

(3)協議事項 第8次鳥取県保健医療計画(案)について

(事務局)から資料3、4について説明。

<質疑応答、意見>

○委員

- ・子どものむし歯は全体平均では減っているが、極端に悪い子がたくさんいるのが現実。
- ・フッ化物洗口剤については、これまで以上に進めていただきたい。
- ・歯科衛生士の不足について、在宅歯科医療に関するマンパワーが全く足りない。特に西部地区には歯科衛生士学校がないが、歯科医師会として学校を作ってしまうのもなかなか現実的には難しい。

○委員

- ・学校では、健康診断や子どもたちの学習について多職種の先生方にお世話になっている。これからは専門の先生方と連携をとりながら、子どもたちの学習を充実したものにしたいと考えながら拝見した。

→ (事務局) 歯科衛生士の不足について、医療提供部会でも話が出ている。東部に県立の歯科衛生士学校はあるが、西部からの入学者は現実として少ない。松江にも学校があり、そこには西部からの入学者はいくらか存在するかと思う。西部地区の歯科衛生士が少ないという意見は以前からいただいている。高齢者の口腔ケアは健康で長生きするためには非常に重要な点と考えているので、そこに関わるマンパワーの充実も重要ではないかと考える。人材確保については、県全体で取り組む部分もあるので、県庁の担当課には意見を伝えていく。

○委員

- ・前回の意見を反映していただき感謝する。
- ・課題や対策の具体的な方針が分かりにくいと感じた。
- ・日々の業務の中で、フレイルを他人事として感じている方が多いと感じている。

→ (部会長) 今回、前回の意見が全部反映されているということでよろしいか。

→ (委員) 問題ない。

→ (部会長) 対策という意味では、今回は来年度から6年間の計画の中で具体的な形にして立案していく出発点ということで、今後色々と検討されていくだろう。

→ (事務局) 指摘いただいたように、具体的に何をやるかということについては、健康づくりは県だけではなく、市町村や企業等、様々な主体が関わっていただく必要がある。フレイルについても米子市で取り上げたイベント(YONAGOデジタル健康フェスタ)が明日(9月28日)開催される予定であり、フレイルについてのお知らせが届くようになっていたりしているという取り組みがある。薬剤師会含めて、一緒に取り組んでいきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

○委員

- ・他の委員と同じく、当初、対策のところが少し具体的ではないように感じた。今後東部・中部・西部とまとめていくということで、今のところは方向性を示すものという趣旨は理解した。
- ・健康づくりのパートだけでも膨大なボリュームがあるが、どこが緊急性・重要性の高い課題なのか分かりやすく示していただけるとありがたいと感じた。
- ・身体活動・運動の対策について、「歩行数」とは何か、情報があると分かりやすい。

→ (事務局) 目安としては一日に何歩歩いたかということで、県としては男性8000歩以上、女性7000歩以上という目標値を設定している。資料4の60ページを参照いただきたい。

→ (事務局) 対策をより具体的に示す、あるいは対策のポイントを示すことは事務局としても非常に重要だと考えている。そういう意味では、ある意味尖った意見として、現場からこういった事業が必要だという意見をいただくと記載しやすい。ポイントとして、喫煙・飲酒対策はずっと取り組んできたが、近年、特にここ数年で喫煙対策については非常に進んだところである。また、歯科保健対策も取組を進めている。高齢者はもちろんだが、今は職域、働いている世代が忙しくて運動できない等のデータを本日もお示ししている。企業や健保組合とも連携しているが、そういった取組は続けていきたい。ウォーキングに関するキャンペーンアプリの歩数についても委員の皆様に登録していただいて、使い勝手等についても率直なご意見をいただきたい。こういったキャンペーンに多くの方に参加いただくと商品の種類が広がり、企業の方にもそういう商品を出す仕事の面からのメリットがある。健康づくりは幅が広く自由度が高い分野だが、そういったことも取り組めたらと考えているので、またよろしくお願ひしたい。

○委員

- ・一回目の職域におけるがん対策に係る意見に対応した記載をいただき感謝する。
 - ・「新興感染症」や「インセンティブ」といった用語が分かりにくいと感じた。
 - ・学校給食について、地元産食材を学校給食に提供している。地元の食材を使用して子供たちに野菜を摂取してもらう必要性は感じている。県としても食生活改善推進員（食改）を重要視していると記載から感じたが、一般の人間には活動が響いてこない。行政として後押しをお願いしたい。
- (事務局) 「新興感染症」とは、具体的には新型コロナウイルス感染症や新型インフルエンザ等を考えている。「インセンティブ」という言葉も、例えば健診を受診すると健診を受診する以上の得が受診者にあるというような意味でまとめて記載していたが、より記載が分かりやすくなるように全体会までに検討したい。
- (事務局) 学校給食について、具体的に何か要望があれば伺いたい。
- (委員) 献立について、今この野菜が欲しいと言われてもその時期ではない、または夏休み中に採れた野菜は使えない、あるいは野菜の規格や種類の関係等で提供が難しいと感じることもある。しかし子どもたちのためにということでいい野菜を作って提供している。献立の条件を緩和してもらえるとありがたい。野菜摂取をもっと呼びかけていこうというのであれば、メニューの改善が必要と考える。
- (事務局) ご意見については他の市町村や県庁とも共有する。

○委員

- ・35年前に食改になったが、この間にずいぶん状況が変わった。今はフレイル予防を重視している。
 - ・市では、各公民館で毎月フレイル予防のチェックを行っている。食改としては住民をお誘いして、実態を知っていただくのが役目と思っている。
 - ・塩分や野菜について、野菜一日350グラムと言われても見当がつかないので、50代の280グラムに「あと70グラム」、「あと一皿」ということで、写真を目で見て量を覚えてもらっている。
 - ・全国平均と比較すると、鳥取、島根は野菜の摂取量が低い。
- (事務局) 具体的にあと70グラム、あと一皿みたいなところを今後の取り組みのキャッチフレーズとして記載していくことも重要だと感じた。境港市もフレイル予防に以前から取り組んでおられる。

→ (委員) 市はニコニコ健康クラブという新たな取り組みを始めている。食品サンプルをトレイに乗せて機械に入れると、塩分、栄養、カロリーといったものが全部出てくる。これが鳥取県内で話題になっている。

○委員

- ・他の委員から意見があったように、対策のところがもう少し具体的に記載されている方が良い。例えばバランスの良い食事についての普及啓発を行うという対策についてだが、課題で塩分や野菜が挙げられているため、その点は記載があると良い。食生活改善推進員についても、今後何か具体的な考えがあるのか。
- ・食環境の整備について、健康づくり応援施設の28年度以降新規の登録がないという点が気になった。利用の呼びかけは必要だが、事業者が増えるような支援も必要なのではないか。
- ・健康づくりの取り組みについても、市町村立の小中学校は入りやすいが、県立である高校や職域は取り組みに二の足を踏んでしまうところがある。その辺りは保健所が中心となって何か取り組んでいただければよいと思う。

→ (事務局) 健康づくり応援の認定施設についてはどうしたら増えるのかということはまた検討させていただきたい。食改についてもどうしたら新しい方に入ってきていただけるか、一緒に考えていきたい。対策についても具体的に記載できる箇所は全体会までに修正したい。

→ (事務局) 健康づくり応援の認定施設については、制度ができてから時間が経っており、こういう機会をとらえて仕組みや施設側のメリットなど、どういう形がよいのか、改めて役に立つようになればと考えている。食改についても、市の託児の準備等の良い例を他の市町村にも紹介していきたい。

○部会長

良い取り組みを県全体として水平展開するというのは非常に重要だと考える。

○事務局

今後の予定について、資料1を用いて説明。

(4)閉会(保健所長あいさつ)

いろいろとご意見いただき感謝する。今回で一応ひと区切りとなり、計画としては来年度からのスタートということで作成する。この部会はコロナ禍で近年開催できていなかったが、基本的には年1回、計画の状況を検証・確認しながらご意見いただく予定としている。そういう意味では、より具体的なところをまた今後もご意見いただきながら健康づくりに取り組んでいければと思っている。引き続きどうぞよろしくお願ひしたい。